

# 生産技術者の役割と 基本知識習得セミナー

～ 生産技術者が果たすべき3つの役割 ～

開催日時 2024年 5月27日(月)～28日(火) 東京会場  
2024年 9月18日(水)～19日(木) オンライン  
各回とも2日間 10:00～17:00

対象 • 生産技術部門スタッフ • 生産管理・工場管理部門スタッフ • 製造部門スタッフ

講師 橋本 賢一氏  
JMA専任講師  
(株)MEマネジメントサービス  
マネジメントコンサルタント 公認会計士

参加料(税込) 法人会員: 113,300円/1名  
会員外: 124,630円/1名

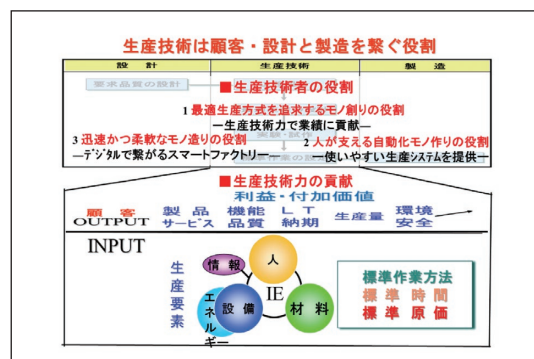
※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。  
※昼食の提供はございません。(各自でご用意ください。)  
※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにて  
ご確認ください。  
<https://www.jma.or.jp/membership/>  
※お申し込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえ  
お申し込みください。

## 本セミナーのねらい

日本国内の製造業は“現場力”に支えられ、製造部門主体のモノづくりを続けてきた一方、生産技術は“設備屋”の役割を与えられてきました。生産技術は設計と製造を取り持つ工程設計が主務でしたが、設備からエネルギー・人・資材・情報へと生産要素の範囲が広がり、上下流にいる設計・製造の期待に応える役割も拡大しています。

- ① 最適な生産方式の追求するモノ創り
- ② 人が支える自動化モノ作り
- ③ 迅速かつ柔軟なモノ造り

上記3つの役割に応える生産技術者の育成・強化は今後のモノ作りの要となり、その役割と基本知識を習得していただきます。



## ■ プログラム

2日間 10:00～17:00 [昼食] 12:00～13:00

### 1 生産技術者に必要なIEと原価知識

—全体最適のための経営視点—

- (1) 生産技術者の組織上の役割とスキル • 生産技術者のレベル評価
- (2) 生産技術者の業績向上に果たす役割 • 付加価値追求の生産技術へ
- (3) 労働生産性向上に寄与する投資選択 • 自動化依存の生産性向上の限界
- (4) 生産技術者に必要なIE知識 • IEの本質は最適生産の構築
- (5) 生産技術者に必要な原価知識 • 改善効果が計算できるか

演習 改善と管理のCD効果を計算

### 2 最適生産方式を追求するモノ創りの役割

—生産技術力で業績に貢献—

- (1) 設計アプローチで最適生産を構築 • 生産要素の最適組合せシステム
- (2) 最適設備は加工点設計から • 過大設備にならないために
- (3) 不良の出ない設備の設計 • 工程能力を確保する

演習 工程能力・標準偏差の計算

- (4) 標準作業方法・標準時間の設定  
• 改善＝現状の標準 → 改善後標準
- (5) 基本機能だけで作業・工程をつなぐ  
• 人と機械の生産性と柔軟性の両立

演習 ロボット作業の改善

- (6) 生産量に合う生産形態の選定 • ライン・セル・機能別の選択

### 3 人が支える自動化モノ作りの役割

—使いやすい生産システムの提供—

- (1) 自動化は数量の多い対象から • 自動化の順序と範囲の決め方  
演習 人と設備の特性問題
- (2) 人の能力の限界を設備に託す • 人と設備はゼロサムが分岐点
- (3) 人にやさしい自動化の推進 • 人と設備の能力を生かす
- (4) 人と設備の共創を演出 • 人と設備の特性を生かす
- (5) 人と設備の自律を演出 • 人は主体、設備は客体
- (6) 製造のKPI向上に貢献 • 労働生産性の向上がねらい

### 4 迅速かつ柔軟なモノ造りの役割

—デジタルで繋がるスマート工場—

- (1) 管理しやすい製造方式 • VUCA: プーカへの対応
- (2) 標準化で設計部門と連携強化 • MDの効果は生産技術で実現  
演習 標準化のステップ
- (3) マス・カスタム生産を目指す • 類似を集め変化を後の生産方式
- (4) 顧客と繋がるスマート工場に向けて  
• フロントから始まるデジタルツイン  
演習 デジタル・マニュファクチャリング
- (5) SCMは生産管理の役割 • デジタルサプライチェーンへ
- (6) 生産技術者のスキルアップ • 生産技術者のスキルマップ

※プログラム内容は変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

